

主日礼拝 2021年3月7日（日）

題 『イエスが来られた理由』

テキスト：マルコによる福音書2章：13～17節

今日の個所は再びイエスが新たな弟子を招かれた場面です。

イエスの弟子は男性12人と言われます。これから先、3年あまりイエスと寝食を共にして神の国を伝えるために働いて行きました。ほとんどの弟子がガリラヤ湖周辺に住む漁師たちでした。

今日の聖書個所の小見出しには、

◆レビを弟子にする、とあります。

13:イエスは、再び湖のほとりに出て行かれた。群衆が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。

イエスがガリラヤ湖に行かれた時、イエスのことを聞きつけてやって来た人々がいたようです。自分のそばに来た彼らに対してもイエスさまは快く話しかけられたのです。

そして湖沿いの道に、収税所があったのです。

14:そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われ招かれました。彼は立ち上がってイエスに従ったのです。

約2000年前のこの地方は、ローマ帝国に支配されていまして地方には、ローマ帝国から認められた地方の王様がおおり、その地域の道を超える場所には収税所が置かれていたのです。わたしたちでも、車で高速道路を走る時、道の管轄が変わるところで、料金をとられますね。イエスさま時代の、収税所の役割は収税人と言われ、ユダヤ人がローマ帝国の許可を通行税をとり、利益を得ていました。集金したものをローマにも支払い、自分の収益を得ていました。中には規定以上の収益を得て私腹を肥やしていた取税人もいたようです。ですから、収税人は、ユダヤ人なのにローマの手先になり、同じ民族の者から税金をとり、かつ私腹を肥やしているということで、嫌われ、いわば罪人のように見なされていたようです。

アルファイの子レビは、取税人で、イエスさまが来られた時、ちょうど収税所に座っていたのです。ちなみにレビという呼び名は、ユダヤ名で、当時、地中海近辺の共通語であったギリシア語ではマタイという弟子の別名だと言われます。証拠はないのですが言い伝えとしては、このマタイはイエスの弟子のマタイで、マタイによる福音書を編集した人物とされます。しかし違いうだろうというのが現在の説のようです。

ともかく、主イエスはレビに「わたしに従いなさい」と言われ招かれました。以前、弟子のペトロをイエスが招かれた時は「わたしについてきなさい。」という言葉でした。

レビには「従いなさい。」と言われます。レビは「座っていた」のです。これは単に物理的な意味だけではなく、

レビの生き方を表しているようにも思えたのです。動かないのです。動けないのかもしれませんが。座った場所から動きたくない、動けない。そのようなことは私たちにもあるかもしれません。そこでイエスの招きの声が聞こえるのです。

「わたしについてきなさい。」「従いなさい。」と。イエスはわたしたちを様々な方法で招かれます。

レビは、彼は立ち上がってイエスに従ったのです。この素早さ。これは心の切り替え、決断のすばやさだと思います。

その後、イエスはレビの家に招かれたようです。レビはそこそこ裕福だったようにも思えるのです。

15:イエスがレビの家で食事の席に着いておられた時のことである。

多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。

12人の弟子以外にもイエスに従って新しい生き方をした人たちが大勢いたようです。男性だけではなく、女性たちもいたのです。

イエスさまの周りには、当時の社会では、ユダヤ教の律法により徴税人を始め、罪人を見なされていた人々、重い病や障害を負った人たちもいたのです。イエスさまは、人の子、神の子として、そのような人たちとの関係、交わりを大切にされました。そのことを当時、社会的に高い地位にあった、宗教家、旧約聖書の専門家などは、良く思っていなかったのです。そこで、彼らはイエスの前に立ちほだかることとなります。これは、イエスの受難と十字架の死まで続くのです。

16:ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。

食事を共にするということは、その人との関係を大切にするという姿勢です。

「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」との律法学者たちの言葉。

ファリサイ派の律法学者は、イエスに従うことはなかったのです。彼らはイエスに対して、イエスこそ私たちに従え、腹の中では考え思っていたのです。

中には聖書に出て来るニコデモのようにイエスの教えに心動かされる人々も

いたようです。

ここで主イエスの決定的なことばが語られます。

17:イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

みなさん、お分かりのことと思います。神の子イエスが、人の子としてこの世に生まれられたのは、来られたのは「正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」という、神の救いの計画実現のためなのです。

ファリサイ派の律法学者は、自分たちは正しい人だと思っていたのです。

しかし、パウロがローマの信徒への手紙3章10節。口語訳聖書、新改訳聖書でも「義人はいない、ひとりもない。」と記されています。旧約聖書の詩編14：3節（P844）「善を行う者はいない。ひとりもない。」の引用です。

人間はみな欠けており、壊れやすい土の器なのです。ですから救われることが大切です。救われるとは難しいことではなく、イエスについて行き、神の愛の中を生きることです。その時、心に平安が宿るのです。神の子イエスによって神さまは救いの道、解放の道を用意してくださったのです。

ここに集った私たち「イエスが来られた理由」を心にしっかりと受け止め、いつでも自分自身に向けて、また人に語れるように準備しておきたいと願います。

◆レビを弟子にする

13:イエスは、再び湖のほとりに出て行かれた。群衆が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。

14:そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。

15:イエスがレビの家で食事の席に着いておられた時のことである。多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。

16:ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。

17:イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」